

保護者と教職員 情報交換

NEWS CIT

2023
10.15
ニュースシーアイティ

千葉工業大学・入試広報部
〒275-0016 千葉県習志野市津田沼
2丁目17番1号
TEL 047(478)0222 FAX 047(478)3344

<https://www.it-chiba.ac.jp/>

毎月1回(8月を除く)15日発行

ニュースガイド

- 2面 ChatGPTでアプリ・井野さん
関さん/PM国際資格44人合格/角田教授が昭島市CIO
補佐官に/秋季学位記授与・
入学式/チバニー新ポーズ
- 3面 PERCが夏期講座/荒井所
長隕石語る/ロボ研究室ツア
ー/千葉市科学館でロボ展示
/夏期海外研修が復活
- 4面 サイエンスショー/八馬教授
の著書ドラマ化/津田沼6号
館改修完了/新任紹介

PPA地区懇談会 開く

全国40会場で 進路や生活、面談も

PPAの地区懇談会が9月2日から土・日を中心に計5日間、全国40会場で開催され、無事終了した。地区会場には計413人(学生数321人)の保護者が出席し、どの会場も盛況だった。



① 会場を埋め尽くした保護者らにあいさつする瀬戸熊修理事長
② 各教室で教員らと個別に懇談する保護者たち



地区懇談会は、本学教職員が全国各地に出向き、日ごろ顔を合わせる機会がない保護者と懇談するのが目的で、大学生の元々の先輩と接点を作り、

当該地区の就職状況を知る機会にもなる。地元企業へUターン就職を希望している人々の参考になり、保護者からも「千葉まで行かず地方で相談できるのありがたい」との声が寄せられた。

最終日の9月24日は津田沼キャンパスで開催。会場の2号館3階大教室に518人(学生数376人)の保護者が集まり、大学の現況などの報告を受けた。その後、就職・進路支援部の小堤幹太次長が「キャリア教育&保護者のサポートについて」と題して講演した。小堤次長は、本学がキャリア教育を体系的に実施していることや、進路選択に向け早期から取り組んでいること、学生一人一人が描いたキャリアデザインを実現するため教職員が連携し合っ

コロナ禍中の対策

2020年に新型コロナウイルス感染症が拡大し、全国の大学がロックアウトを続ける中、本学はどの大学よりも早く学生たちにキャンパスを開放し、多様な人数分散を工夫しながら実験・実習・演習を手始めに授業を実施してきた。

これは大学の授業開講の責任を果たすためだけでなく、貴重な大学生活で学生たちが仲間と、ともに研鑽し、就職サポートがしっかりとされていると分かった。

本学取り組みが成果

下回る予測となった。これは早期の授業の復活やクラブ活動の復活、欠席者への電話連絡や窓口相談に加え今年度から開設した「学生サポートセンター(通称・がくとほ)」の在学の先輩たちが相談に対応している効果があったとみられている。

② 今年度新入生向け調査で、履修単位に對しほぼ全ての単位を取得した学生の割合が前期時点で86・5%となり、過去3年比で4・7%も上昇した。近年の入学試験倍率の上昇に伴い、入学する学生たちの学修意欲が高まっている。



藤田医科大学と本学、連携協定

本学と藤田医科大学(愛知県豊田市)湯澤由紀夫学長、在籍者約2800人)は9月20日、包括的な協力関係を築いて相互に発展し、学術及び産業の進展と人材の育成を目指すこと、「包括的連携協定」を締結した。締結式は藤田医大の1号館会議室で行われ、湯澤学長と本学の伊藤穂一学長、同左二氏がそれぞれ協定書に署名した。

藤田医科大(略称・藤医大)は1964年(昭和39)年設立。超低侵襲標

化診断治療などに取り組み、THE世界大学ランキングの私立上位に登場。名古屋や三重県津市に4つの教育病院を持つ。湯澤学長は仮想空間での連携を構築するメタバース推進協議会で医療福祉関係を代表する理事を務めている。

今回の包括的連携協定で、AI技術やブロックチェーン技術を活用した医学、情報学、環境学等の研究分野における共同研究を進めていく予定。共同研究が期待される。

た「個別面談で先生が親身になって話を聞いてくれ、安心した」「保護者がたくさん来て関心の高い大学だと再認識した」「先生と話す機会が用意され、大学を身近に感じることができた」などの好意的な感想が寄せられた。

7月に本学は、米ニューヨーク市立大学(Dominic's College)学長、学生約1200人、教員約7千人、研修医約2500人、ニューヨーク市に本部と包括的な大学間交流協定を締結した。

同大は1963年創立。ニューヨーク市立大学にあり生物医学の教育・研究、患者ケアの国際的リーダーとして8つのキャンパス・病院を展開。医学グループマウン

ChatGPTを用いてアプリ開発

井野さん、關さん ▼ PM秋季大会で奨励賞



プロジェクトマネジメント(PM)学会の2023年度秋季研究発表大会(8月31日～9月1日、山口県宇部市の山口大工学部・常盤キャンパスで開催)で、井野駿也さん(写真右)、關咲良さん(写真左)ともにPM学科3年、小笠原秀人研究室の2人が提案した「ChatGPTを用いたWebアプリケーションの開発」が学生研究発表奨励賞を受賞した。

人間並みに問いに答える生成AI「ChatGPT」について、プロジェクトマネジメント演習(PM演習)でプログラムを作成する際、発生した問題をChatGPTを使って解決

した。このときに解決した問題、逆にChatGPTによって起きた問題をまとめ、Webアプリケーションを開発する上でのChatGPTの活用方法を提案した。

ChatGPTの活用でプロジェクトの創造性と効率性が向上した反面、回答の精度向上や品質管理が課

題となった。技術と倫理をバランスよく考える重要性を学んだので今後に生かしたいという。

受賞に關さんは「感謝の気持ちでいっぱいです。協力者とチームメンバーの支えがあって成功したもので感謝しています。ChatGPTの潜在力や課題を学んだので、より

正確で安全な利用方法を研究したい」。

井野さんは「初めての学会発表で、賞にこだわらず楽しく発表を、と考えていたので(受賞は大変うれしかったです。これを励みにPMの研究につなげ、ChatGPTの進化に対応していきたい)」と語った。

昭島市のCIO補佐官に

角田教授が就任 ▼ 電子化へ助言役



社会システム科学部の角田仁教授(写真)が7月1日付で東京都昭島市のCIO補佐官に就任された。

CIO(Chief Information Officer)補佐官は電子政府構築計画を支援する中で生まれた役で情報システム統括部

門に助言し、最適な組織を生み出す設計を担う。昭島市は副市長がCIOを務めているが、角田教授は副市長を助け、自治体が保有する情報システムに関する支援・助言や地域のDX・デジタル化を推進する。

角田教授はデジタル人材育成学会の会長で、

「EPPM(Evidence Based Policy Making)もトライしたい」と述べ、学会と連携した市職

チバニーにおじぎポーズ

成田さんの案採用 ▼ 誕生10年募集



「おじぎチバニー」上紙が成田さんに贈られた。

成田さんは「かわいいですね」と笑顔。「おもしろいなことやってるな!」と思いついたイラストを描くのが好きだったこともあり応募しました。まさか選ばれるとは(笑)。うれしいです」と話していた。

10月3日、チバニーが出演して授賞式があり、チバニー生みの親・坂崎千春さん(イラストレーター)、本学の坂崎春樹名誉教授(元・工業経営学科)のご息女が描いた新ポーズとサイン入り色紙が成田さんに贈られた。

「おじぎチバニー」上紙が成田さんに贈られた。

成田さんは「かわいいですね」と笑顔。「おもしろいなことやってるな!」と思いついたイラストを描くのが好きだったこともあり応募しました。まさか選ばれるとは(笑)。うれしいです」と話していた。

PM国際資格に44人合格

その後の仕事に対する視

米国プロジェクトマネジメント協会(PMI)が認定するプロジェクトマネジメントの国際資格CAPM®(Certified Associate in Project Management)に、本学の44人が合格した。

CAPM®はビジネスに必要な「目標設定↓計画↓実行・修正」のプロジェク

とが求められており、本学では毎年7～9月にPA特別教養講座の支援のもと、学内で丸4日の短期集中研修を開講している。講師は本学PM学科1期生でデザイン科学科の西田絢子准教授が、講座事務局はPM学科の田隈広紀准教授が務めている。

22年度研修分の合格者第1号の高橋郁成さん(デザイン科学専攻)は「マネジメントの知識は、想像以上にデザイン科学と関連・類似していると感じました。修論や



届いた認定証を掲げる合格者たち

野が広がったことを実感しています」と語った。合格者(敬称略・所属は22年度のもの)

- ・PM学科…三科隆也
- ・貴田智博、赤津榛花、上石源、荒木敬介、宇佐美真幸、太田良、岡島幸輝、加藤大聖、鎌形友貴、北澤準也、栗原瑞生、小林俊介、柵山峻輝、佐々木聡真、清水颯太、田中創、陳志恒、中川大海、橋本匠矢、平形和也、平川日向、藤井倅太郎、藤澤歩、丸山美優、森陽兵、山内珠々菜、山本翔太、荒川義文、齋藤聖也
- デザイン科学専攻・デザイン科学科…戸沢健、伊藤尚子、高橋郁成、荒牧響、井内惇、尾形桃香、坂本健、鈴木勇輝、新葉星来、相楽恵里、鎌田梨那、川又千恵、塚越楓、二本松梨紗

26人新スタート

▼ 秋季学位記授与・入学式



令和5年度の秋季学位記授与式と入学式が9月12日、津田沼校舎1号館20階で行われ、卒業生24人、新入学生2人の計26人が新スタートを切ったII写真。

卒業生は学部21人、大学院修士課程2人、博士課程1人で、午前10時から学位記授与式が行われた。

学部卒業生代表の情報工学科・小野美琳さん、博士前期課程及び修士課程修了生代表の知能メディア工学科専攻・小林蓮さん、博士後期課程学位取

得者のマネジメント工学専攻・遠藤晃男さんらが緊張した面持ちで佐波孝彦副学長から学位記を受け取り、所属研究室の教員らが見守った。

晴れて卒業を迎えた学生らは、伊藤穰一学長から「皆さんが大学の学びを通じて得たものは、単なる知識や技能だけではなく、ありませぬ。挑戦して失敗する、そしてそれを乗り越えていく、そうした経験を通じて、皆さんは、より強くなり、より柔軟に対応する力を獲得しました。未来は予測できないかもしれませんが、皆さんが未来を切り開く力を持っていることを信じています。皆さんのこれからの

人生に、新しい発見と成功が数多くあることを心より願っております。千葉工業大学の誇りとして、世界に羽ばたいてください。本日は、おめでとうございます。(当日、佐波孝彦副学長が代読)と、祝福の言葉を贈った。

午後2時からは秋季入学式が行われた。入学生は大学院修士課程の情報通信システム工学専攻に1人、博士後期課程の工学専攻に1人。新入生たちは瀬戸熊修理理事長、式典に参加した教員らに「入学おめでとう」と言葉かけられ、新たな一歩を踏み出した。

▼夏休みに開く科学講座

DESTINY+が目指すもの

PERC、JAXAが小中高生に

本学と宇宙航空研究開発機構（JAXA）が共同で計画を進める小惑星探査機「DESTINY+」（デスティニー・プラス）が2024年度に打ち上げられるのを前に、小中高生を対象にした夏期公開講座「デスティニー・プラスがめざす小惑星の謎」が7月30日、東京スカイツリータウンキャンパスで開かれた。夏休み中の家族ら約80人がトークやクイズを楽しんだ。

本学からは惑星探査研究センター（PERC）の荒井朋子所長や小林正規副所長、石橋高上席研究員、秋田谷洋上席研究員が登壇。JAXAの高健プロジェクトマネジヤもサプライズで参加し、トークライブ形式で進められたII写真。



PERCの講師陣はデスティニー・プラスと、その目標天体である小惑星「フェートン」を分かりやすく紹介。小惑星の特徴や搭載される機器と探査方法などを計14問のクイズ形式で解説した。

途中で登場した「イプシロンロケット」の模型や、フェートンのダストを地球に持ち帰ることなくその場で観測する装置「ダストアナライザー」の実物大モデルに子供たちは興味津々で、搭載カメラの駆動鏡の試験段階の動画なども特別に紹介された。質問コーナーでは「フェートンのCに見える白く映っている部分は何か？」といった声が寄せられ、研究員たちの解説に聞き入っていた。

荒井所長は「デスティニー・プラスのことをいろいろ知っていただきたいと思う。ぜひ夏休み明けに友達にも教えてあげてください」と呼びかけ、JAXAの高島プロジェクトマネジャーは「トマナジャーは「デスティニー・プラスは挑戦的なミッション。5年後、10年後、15年後に皆さんがもしかしら関わることかもしれないので、長い目で応援いただけたらと思っっている」と話していた。

最後に、デスティニー・プラスと同じく24年度打ち上げ予定で、PERCが大きく関わっているJAXAの火星探査機「MMX」も紹介され、PERCが開発を主導する2つの観測機器などを説明。観測装置の開発についてクイズでは、探査機や人工衛星をロケットから切り離す時の衝撃に耐えられることを調べる試験方法に「おじさんがハンマーでたたき」方法もあることを明らかにすると、参加者は驚きの声を上げていた。

小中高生向けの夏期公開講座「本物の星の力」が8月6日、東京スカイツリータウンキャンパスで開かれた。先着約80人の親子が参加し、隕石の種類や太陽系の歴史などについて楽しみながら学んだ。



本物の隕石に触った 荒井所長が解説 ▼ 太陽系を学ぶ

今回、文化会館制作の「本物の隕石に触った」がクイズのイラスト制作に協力し、イベントの成功に貢献した。

（PERC）の荒井朋子所長は「今日のテーマは『石』。石には、石のさまざまな時代や時期の情報が刻まれている。地球以外の天体の力がある。地球の歴史を調べるための貴重な手がかり。地球以外の天体の力を見て触ってほしい」と話していた。

「本物の隕石に触れるコーナー。ビニール手袋をつけた参加者は各種の隕石に触れたり比べたりII写真上、金属の鉄を含む隕石に磁石が付くことを確認。「黒い部分や白い部分は何か?」「どうして隕石はくっつくの?」など質問を重ねていた。

ベトナム 海外インターンシップでは、FPT大学でビジネス英語を研修後、同国のIT企業やリゾートホテルで実務を経験した。学生たちはこの経験で英語力の向上と同時に異文化理解を深めることができた。外国の友人もできた。笑顔で語った。

復活！夏期海外研修 ▼ 28人参加 米、ベトナム、モンゴルで

新型コロナウイルスのパンデミック（世界的大流行）で本学の夏期海外研修プログラムは中止を余儀なくされてきたが、今年、規制緩和が進んだことから、大学は4年ぶりにプログラムを再開。米カリフォルニア大での英語研修に15人、ベトナム海外インターンシップに9人、今年から開始したモンゴルサマースクールインターンシップにも4人と、計28人の学生が参加した。

カリフォルニア大での英語研修は、同大アーバイン校でネイティブ英語講座を受け、現地学生と交流しホームステイを体験した。



モンゴル小中高一貫校でのサマースクールインターンシップには、他大学の学生を含めて参加希望が殺到した。結局8人が選ばれたが、その半数の4人が本学学生。参加者たちはモンゴルの高校生に日本語や日本文化を教える体験に挑んだ。プログラム初日にはサプライズで瀬戸熊修理理事長が現地に現れ、参加学生らを激励。学生たちは突然の理事長訪問に驚きながらも喜び合っており、モンゴルでの体験を満喫していた。

6人が出向いてレスキューロボット群を展示。開発ロボット群を解説し、デモンストレーションや縦横体験教室を開いたII写真。

災害対応ロボ展示し実演 f u R O と学生 ▼ 千葉市科学館で

千葉市科学館（千葉市中央区）が開いた夏の特別展「スタンバイ！防災！もしものときのわたし」で、未来ロボット技術研究センター（f u R O）に依頼があり、保坂謙史郎・客員研究員と未来ロボテイクス学科の学生



「ロボットの暮らしが未来社会とロボ研究室ツアー」が8月9日、津田沼キャンパスで開かれた。科学に関心を持つ中高生のために千葉市教育委員会が未来の科学者育成プログラムに従って学習機

中高校生 ロボ研究室巡り

▼ f u R O、未ロボ学科が協力

「ロボットと暮らしが未来社会とロボ研究室ツアー」が8月9日、津田沼キャンパスで開かれた。科学に関心を持つ中高生のために千葉市教育委員会が未来の科学者育成プログラムに従って学習機



「ロボットの暮らしが未来社会とロボ研究室ツアー」が8月9日、津田沼キャンパスで開かれた。科学に関心を持つ中高生のために千葉市教育委員会が未来の科学者育成プログラムに従って学習機

世代の乗り物や災害の時に役立つロボットなどを、生徒たちに分かりやすく話し、「ロボット技術がどんなに進歩しても、どう使うかを決めるのは人間です」と語った。第2部は未来ロボテイクス学科の研究室ツアー。菊池耕生研究室や太田祐介研究室、上田隆一研究室II写真上IIの学生らが、企業と連携開発したロボットや研究室での研究成果を説明し、一部縦横体験も行われた。

生徒たちは「自分が思っていたよりもロボットが生活の中で役立つことを知った」「ロボット技術の進歩の速さに驚いた」「ロボットが人

「ロボットの暮らしが未来社会とロボ研究室ツアー」が8月9日、津田沼キャンパスで開かれた。科学に関心を持つ中高生のために千葉市教育委員会が未来の科学者育成プログラムに従って学習機



「ロボットの暮らしが未来社会とロボ研究室ツアー」が8月9日、津田沼キャンパスで開かれた。科学に関心を持つ中高生のために千葉市教育委員会が未来の科学者育成プログラムに従って学習機

燃焼実験に親子ら100人

半沢教授ら担当 ▼サイエンスショー

本学教育センターが担当する夏休みの小学生向け「サイエンスショー」が7月22日(土)、千葉県立現代産業科学館(市川市鬼高)で開かれた。見慣れない実験の様子に歓声が上がった。

実験してみせたのは教育センターの半沢洋子教授(化学)写真前方スクリーン横)と非常勤教員の金子毅さん(その右。まずは酸化現象など自然の不思議をイラストで解説し、さまざまものを燃やしてみせた。

鉄も燃えるか……。ヤスリで削った鉄粉やマグネシウムリボンにバーナーを近づけると火花を飛ばし、モノによって発色や燃え方に違



時、2時45分開始の2回の実験に、小学生や保護者が各50人ほど参加。最後の見せ場はスチールボールをツリーに見立てた体験コーナー。子供たちが注意深くツリーに点火し、パチパチと燃えるツリーに親子から「きれいなすずい」「不思議!」と感想が寄せられ実験を締めくくった。

いがあることに驚きの声が上がった。

取り入れたのが木目調。1階ホール吹き抜けに木の柱を林立させ、つなぐ壁には趣のある「ゆず肌仕上げ」を施し、光が包み込まれる大空間を演出した。講義室の壁・柱・梁には異なる色味の木目シートで濃淡のアクセントを付けた。また、一部の講義室には木目調の床材を張り、温かみのある明るい雰囲気に変えた。

津田沼6号館 改修完了

木目調の新空間



光と木の柱が迎える1階ホール



講義室は床材も木目張り

津田沼キャンパスのツインタワーに挟まれた6号館(5階建て講義棟)は、経年劣化などのため8月から夏期休業期間を利用して改修工事が行われていたが、このたび工事が完了した。1階を中心にホールと教室内部が明るい空間に生まれ変わった。

6号館は1995年12

日常の絶景めぐる旅

八馬教授の著書ドラマ化

デザイン科学科・八馬智教授II写真上IIの著書「日常の絶景 知ってる街の、知らない見方」II同下IIがテレビ東京でドラマ化された。9月19日に放映が始まり、3週にわたって放送された。

同書は八馬教授が「絶景は私たちの日常に隠れ



ている」をコンセプトに、室外機やダクト、通信鉄塔、消波ブロック、ダムなど、都市を形作る15個を写真と共に解説。

2021年12月に学芸出版社から出版された。ドラマでは、日常の絶景探しが趣味の会社員(元乃木坂46・伊藤万理華さん)が同僚(電線愛好家を自称する俳優・石山蓮華さん)と2人で

「自身がとらえる『日常の絶景』のコンセプトを、他者がどう表現するのかがとても楽しかったです。第1話を見て、プロが撮った映像はとて美しく、素晴らしい仕上がりと話していた。



お台場のガントリークレーン、勝浦の砂防や消波ブロック、埼玉県の滝沢ダム

web3、DAOの会社へのインパクトなどが専門分野です。自身の研究もしっかり行いつつ、大学の運営面でも貢献できるように頑張っています。

新任紹介

水本 旭洋 准教授 (情報ネットワーク学)



教育と研究の両面から、学生に1つでも多くのことを学んでもらえるように、環境を整えていこうと思います。

専門はサイバーフィジカルシステム。趣味はボードゲーム、キャンプ。

松原 康太 研究員 (変革センター)



職員同士でコミュニケーションを密にとり、活気あふれる職場です。自身のすべき役割を理解し行動する人材になるよう精進します。

趣味は釣り、サウナ。

Kucukarslan Nuran 研究員 (地球学研究センター)



遺跡から発掘された金属や土器などを地球化学的手法で分析し、これらが作られた時代の技術が明らかになることが研究テーマです。地球学研究センターの一員として、中央アナトリアの歴史をより深く正確に解明していきたいと思っています。

山口 聖矢 (総務部付 事務職員)



職員同士でコミュニケーションを密にとり、活気あふれる職場です。自身のすべき役割を理解し行動する人材になるよう精進します。

趣味は釣り、サウナ。

同窓会



私はまだ現役のサラリーマンですが、最近仕事の効率化で非常に便利なツールが出てきました。そうなんです「チャットGPT」です。ご存じの通り、この技術により世界のすべての産業で大変革が起こると言われています。チャットGPTは、AIでありながら人間のよう

ような文章を作成することができ予測まで出来る人工知能ツールです。対話型で質問すると勝手に答えてくれるのです。それもかなり高い精度で回答してくれるのです。これがあればもう残業が片付いていくと思いきや、そんな簡単ではないですね。間違った情報があったり、正確ではなかったりとまだまだのところもあります。残念な

りました。目に見える結果を残すことが出来てほっとしています。

市民大会を皮切りに出身大学のOBとして出場する大会や社会人の大会も変わり、チームを組むメンバーも変わります。秋の訪れとともに誘惑して、食欲は我慢して、稽古に励みたいと思えます。

大学の改革推進室 渡邊 新

四季雑感



いつまで続くのかとろんざりしていた暑さも和らいだ10月初旬、習志野市民剣道大会へ出場しました。5人1チームの団体戦、私以外の4人は本学の現役部員、難しい局面は若者に任せて……と、楽な気持ちで臨んだのが良かったのか戦績は上々。チームは2位と

早々に敗退すると昼過ぎから、終わりは変わらず夜更けまで。中心は50-60代の先輩方、盛り上がりつつと割り箸を竹刀に見立て、美演を始め先輩の姿はこのチームでも変わりません。

良い結果を残し、楽しい反省会にするために、秋の訪れとともに誘惑して、食欲は我慢して、稽古に励みたいと思えます。

大学の改革推進室 渡邊 新

編集だより



猛暑日が続くなど全国で記録的な暑さとなった今年の夏。気象庁が過去の126年で最も暑い夏だったと統計をまとめた。暑さはもとより、いつまで引きずれば気が済むの?と、とにかく猛暑期間が長かった気がする。暑いかなと思えば急に冷

え込んだりの繰り返し、やっと秋めいてきた10月半ば、私事で恐縮だが「あれ?もしかして風邪っぽい?」とちょっとダウン。私には珍しく風邪を引いてしまった。普段、元気が取り柄の私は、ほんの少しのやせ我慢と気合いで、家族全員がインフルにかかろうが、熱を出そうが、びびりしてはいたものだが、今回どうしたものか……。「不甲斐ない」の

一言に尽きる。しかし、例年12月から流行するインフルエンザがすでに注意レベルとなっている。今後、冬にかけてさらに流行する可能性もあることから、予防は必須だろう。

本学では、インフルエンザワクチンの予防接種について案内を出したばかり。ポータルサイトを今一度確認下さい。

入試広報部 大橋 慶子